

## 大寨の奇跡

今から 50 年以上前、中国では「農業は大寨に学べ」という有名な政治スローガンがあった（今は中国からの留学生に話しても誰も知らない）。毛沢東主席が 1950 年代後半から農村で推進した人民公社制度、大躍進政策が悉く裏目に出る一方、劉少奇や鄧小平が打ち出す資本主義的手法は功を奏す。毛沢東は自ら提唱した人民公社による集団農業は間違っていないと飛びついたのが山西省の貧しい農村・大寨村の事例だった。

大寨村の集団による飛躍的な生産向上は自力更生の成功モデルとして「大寨の奇跡」と大々的に宣伝され、これに習えと全国から見学者が相次いだ。村の指導者だった書記の陳永貴は成功のシンボルとしてトントン拍子に出世し、副総理にまで昇りつめたが、文化大革命中のプロパガンダがはげ落ちた改革開放の時代になるとその職を辞し、寂しく世を去った。

このような昔の話を思い出したのは、昨今の DeepSeek ブームである。景気が勢いを欠く中でも、指導部は「新質の生産力」「質の高い発展」を掲げ、景気刺激よりも頑なに創新（イノベーション）駆動の成長モデルに拘った。そこで突然出現したのが中国発の生成 AI「深度求索（DeepSeek）」である。米国 OpenAI に比肩する性能を中国のスタートアップ企業が短期間、低コストで開発したというのは、

何とも痛快な現代版の自力更生物語である。

創業者の梁文鋒氏（1985 年生まれ）は新モデル発表当日の 1 月 20 日、李強首相

主宰座談会に出席、2 月 17 日には習主席の「民営企業座談会」にも呼ばれた。政権の広告塔としていかに重宝されているか見て取れる。

DeepSeek の大ブレイクによってこれまで注目度の低かった新興企業に対しても「セブン・タイタンズ（巨人 7 銘柄）」や「杭州六小龍」などと注目が集まる。さらに「なぜ杭州市（浙江省）なのか？」にも関心が向けられ、浙江省は産官学がそれぞれの役割を遂行して連携がうまくいっていることが成功の秘訣と今年の全人代でも一躍スポットライトを浴びる存在となった。ここ数年の風向きの中で委縮している民営企業に安心感を与え、創新を軸にした成長戦略は間違っていなかったと鼓舞する狙いもあるだろう。

DeepSeek がその後の大寨と同じ道を歩むと言っているのではないが、近年では阿里巴巴（アリババ）の例もあるように、一度政権の広告塔となった人物や企業のその後の難しさもまた否定できない。DeepSeek の奇跡が一過性のブームで終わらないことを切に願っている。

（アジア研究所教授 遊川和郎）



### \* 研究所だより \*

毎年恒例の公開講座を下記の通り実施します。

- ・共通テーマ 『急変する韓国情勢』
- ・期間 令和 7 年 5 月 17 日～ 6 月 7 日（全 4 回）
- ・曜日・時間 毎週土曜日 14 時～ 15 時 30 分
- ・開催形式 ハイブリッド形式（対面、オンライン）
- ・受講料 無料

2024 年末の戒厳令以降、尹大統領が弾劾訴追されるなど韓国情勢は一気に流動化しました。さらに、

年初のトランプ米政権の再登場が朝鮮半島情勢の新たな変数として加わっています。本年の公開講座では、急変する韓国情勢を国内政治、南北関係、日韓関係、米中との経済関係を切り口に分析・展望していきます。

多くの皆様の参加をお待ちしております。

参加申し込みは下記ページまでどうぞ。

<https://www.asia-u.ac.jp/research/asian-institute/extension.html>（アジア研究所公開講座 HP）

(koza@asia-u.ac.jp)